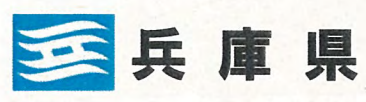


推進計画に基づいた施策の進捗状況

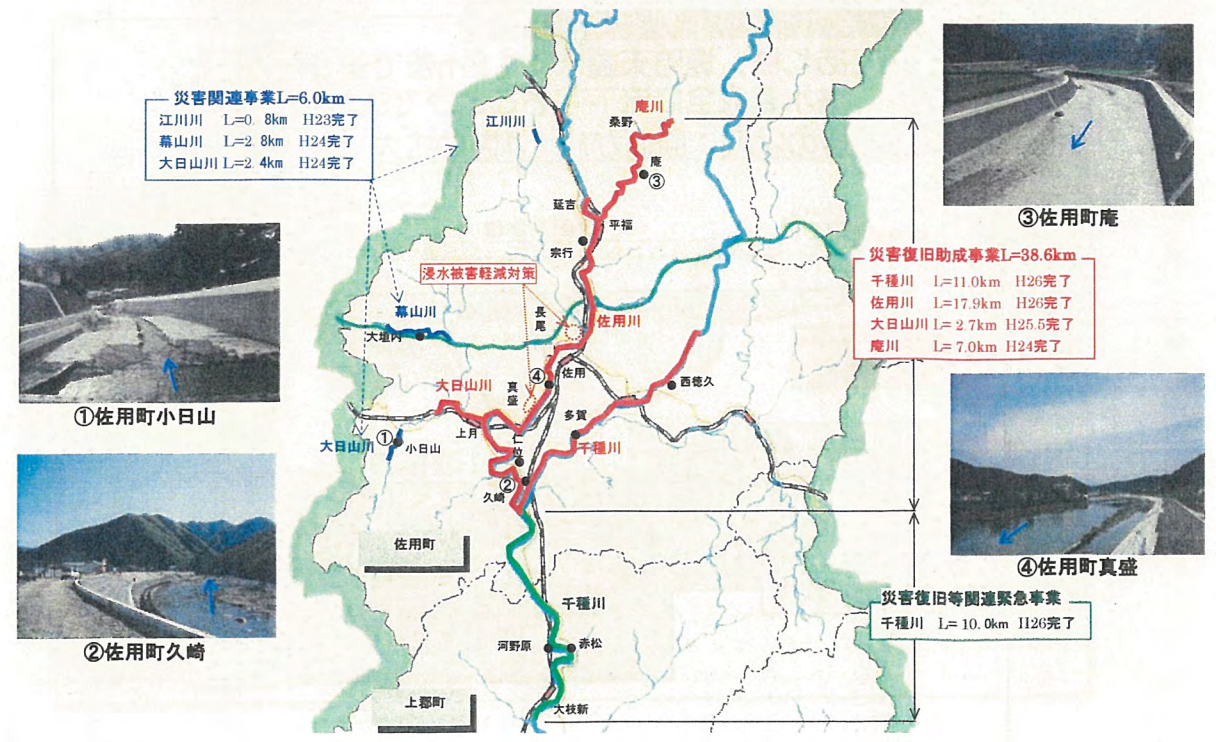


1

河川下水道対策

千種川水系緊急河道対策位置図

・ H25年度の進捗率72% (H25.12時点) **H26年度完了予定。**



2

河川下水道対策

千種川水系緊急河道対策等の河川改修

H25年9月豪雨(24H:151mm(佐用))に対し効果を発揮！

①佐用川(佐用市街地)

整備前であれば、洪水が堤防とほぼ同じ高さにまで達していたことから、甚大な被害をもたらしていた可能性があります。

整備後の状況：断面が約2倍に拡大



3

河川下水道対策

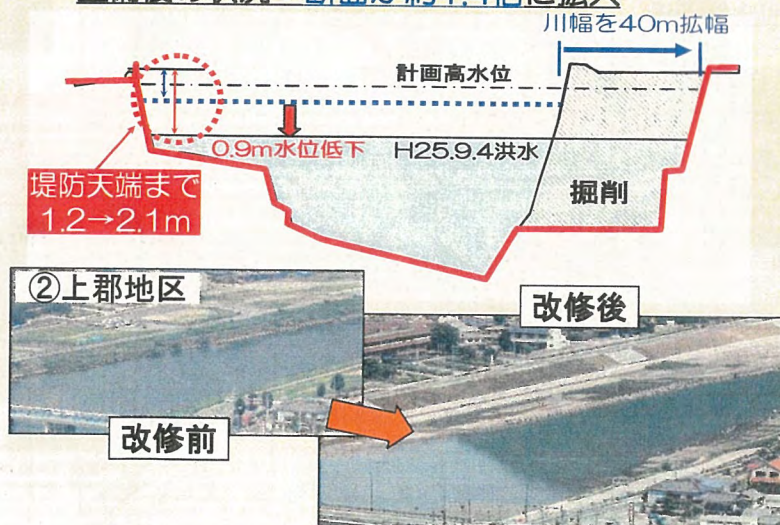
千種川水系緊急河道対策等の河川改修

H25年9月豪雨(24H:151mm(佐用))に対し効果を発揮！

②千種川(上郡地区)

整備前であれば、堤防天端まで1.2mまで迫っていましたが、洪水を安全に流下することができました。

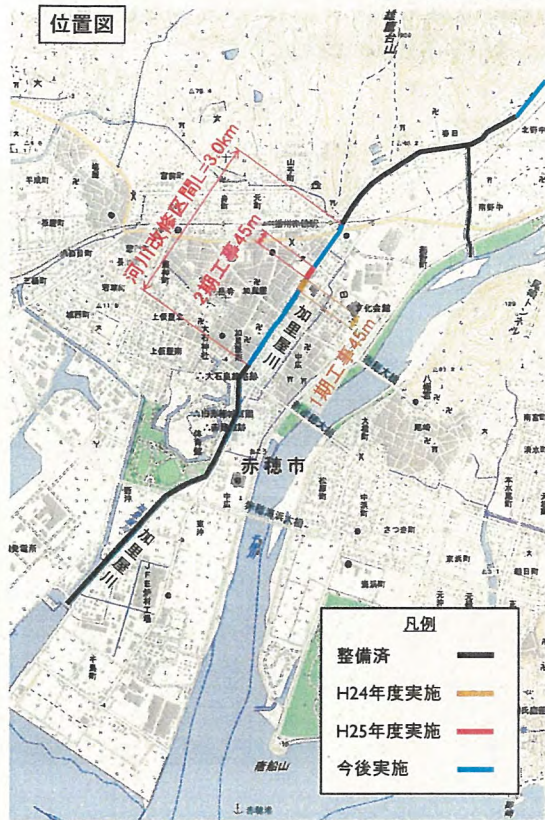
整備後の状況：断面が約1.4倍に拡大



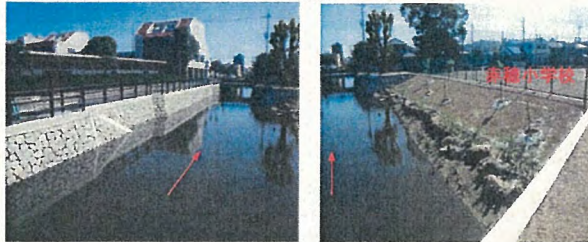
4

河川下水道対策

加里屋川河川改修



1期完成写真(平成25年7月10日完成)



工事の概要
 <左岸(赤穂市道側)>
 自然石(赤穂石)を用いた石積護岸
 <右岸(赤穂小学校側)>
 水辺に近づきやすい緩傾斜護岸
 生態系に配慮した水際部の植栽

2期現況写真(平成25年12月末時点)



河川下水道対策

河川管理施設の主な長寿命化対策(H25年度)



加里屋川排水機場
 1号主ポンプ設備 分解整備(オーバーホール)
 運転支援装置 更新



1号主ポンプ設備
(11年経過)



運転支援装置
(39年経過)

竹万救急内水排水機場他
 主ポンプ設備 分解整備(オーバーホール)



竹万救急内水排水機場
主ポンプ設備(16年経過)



久崎救急内水排水機場
主ポンプ設備(17年経過)

河川下水道対策

千種川土砂掘削

- 13万 m^3 の土砂掘削を実施し治水安全度の確保を図るとともに、安全度が低い箇所の堆積土砂の撤去を実施。H25年度中に完了予定



掘削状況写真

榎原橋から上流



榎原橋から下流

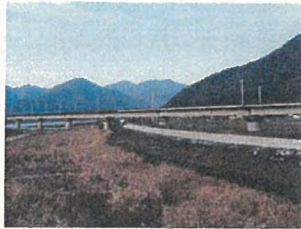


7

河川下水道対策

千種川堤防補強

表法保護工及び巻堤による堤防補強を整備中。H26年度完了予定



赤穂市周世



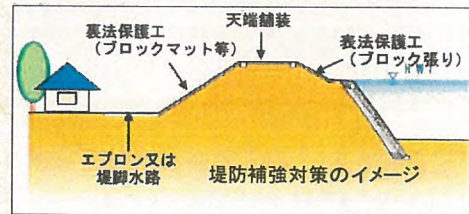
赤穂市目坂



赤穂市南野中



表法保護工



赤穂市高野



赤穂市木津

8

河川下水道対策

金出地ダム整備の推進



金出地ダム工事中写真(上郡町金出地)

金出地ダムの整備を推進。
H27年度完成予定。



金出地ダム完成イメージ



金出地ダム定礎式(H25.12.1)

9

河川下水道対策

下水道の整備及び維持

相生市千尋地区で雨水排水計画の見直しに着手 **H26年度以降順次整備予定**



佐方雨水ポンプ場 最大放流量 2,612m³/s

高潮による水門閉鎖時は
全量佐方雨水ポンプ場
から排出



10

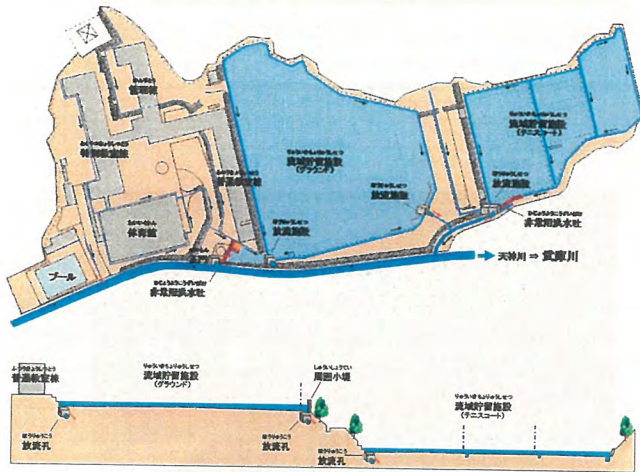
流域対策

校庭貯留の整備

佐用高校: H26年度調査設計予定

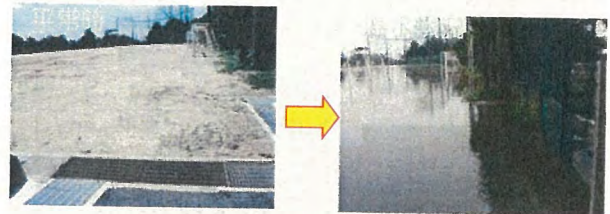
相生産業高校: H27年度調査設計予定 (H26年度～27年度 庁舎耐震化工事)

校庭貯留イメージ (宝塚東高校の例)



県立宝塚東高校において、校庭に降った雨を一時的に貯留し、オリフィスにより少しずつ下流に流す流域貯留浸透事業を実施

- ◆貯留量 : 1,670.59m³(グラウンド)、596.45m³(テニスコート)
- ◆最大貯留水深 : 35.0cm(グラウンド)、24.5cm(テニスコート)



校庭貯留の例 (県立宝塚東高校)

流域対策

防災公園における雨水貯留機能の確保

H26年度: 防災公園を掘り下げて雨水貯留施設を整備(予定)

[現状・課題]
地区内の住宅に面した道路の多くは、幅員4m未満で、緊急車両の通行が困難な状況。
4m以上の道路に接している宅地
施行前 7.25ha/39.39ha (18%)

幅員狭小の状況

緊急車両の通行としての道路整備

[整備方針]
地区周辺の災害に備え、非常時の一時避難場所としての**防災公園**(2ha)を整備。

防災公園完成イメージ

野中・砂子地区土地区画整備事業における防災公園の雨水貯留施設の整備

減災対策

道路アンダーパス部の浸水情報の提供

竹万アンダーパス部の冠水情報板をLED式に更新(H25.5)

H26年度: 広報誌にてPRを予定



冠水情報板

(主要地方道赤穂佐伯線竹万JRアンダー交差部)



冠水情報板(国道373号興井JRアンダー交差部)

減災対策

千種川流域河川情報システム“水守(みずもり)”

県のホームページにて河川カメラによる映像、水位情報を発信

H26年度: 広報誌にてPRを予定

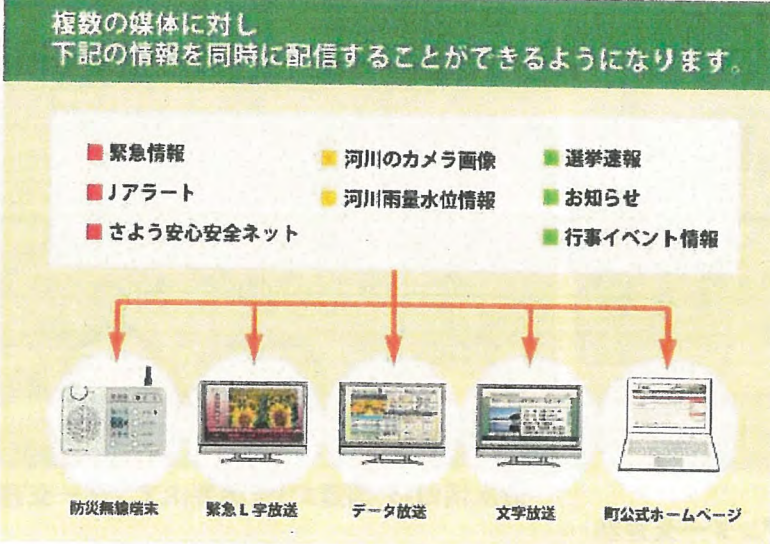


減災対策

ケーブルテレビを活用した情報発信 (宍粟市、上郡町、佐用町)

H26年以降も引き続き情報提供

■イメージ図



CATVで災害情報

佐用チャンネル 配信開始

佐用町は、災害時の避難勧告などの緊急情報を町のケーブルテレビ「佐用チャンネル」で配信することにし、20日から運用を始めた。これまでの防災行政無線や町ホームページに加え、緊急情報の伝達経路が増えた。

佐用チャンネルは町内の家庭の96%が加入。地元の話題などの番組を放送している。リモコンでデータボタンを押すと「佐用町データ放送」の画面に切り替わり、河川の監視カメラ映像や水位データ、防災行政無線の放送内容などを見ることが出来る。緊急時には、画面の左側から下側にかけてL字形の文字スペースが現れ、避難準備情報や土砂災害警戒情報などが自動で表示される。

2009年の水害を教訓に防災力を高めようと、昨年度から2年間で13億1千万円かけて進める防災行政無線デジタル化の一環。完了すれば、アナログ防災無線とホームページで別々に作業している緊急情報の入力が一貫できむようになり、情報が早く伝わるという。

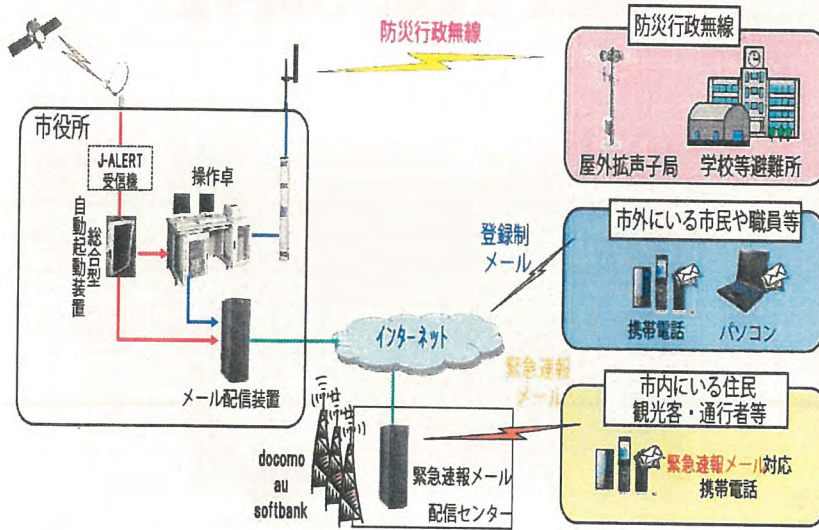
朝日新聞H25.6.21

減災対策

防災行政無線の整備 (赤穂市)

H25年度中に設計

H26年度から整備



防災無線整備の方針

赤穂市 80カ所にスピーカー

16年春に使用開始

赤穂市は28日地震にスピーカーを備えたや津波台風など自然災害発生時に緊急情報や避難勧告を市民に伝える防災行政無線を整備することを明らかにした。これまでは防災行政無線のメール配信や各自治会を通じての伝達だったが、市は無線で直接の配信が可能としている。

この日の市議会総務文教常任委員会では、今年度中に設計を済ませ、2016年4月から使用開始する。計画では市役所に80カ所、市内80カ所にスピーカーを備え、今年度中に設計を済ませ、2016年4月から使用開始する。計画では市役所に80カ所、市内80カ所にスピーカーを備え、今年度中に設計を済ませ、2016年4月から使用開始する。

定価は約440万円、半額補助という。【小泉英二】

毎日新聞H26.1.29

減災対策

県が主催する「防災リーダー講座」への参加

受講者募集

平成24年度 ひょうご防災リーダー講座

この講座は、地域防災の担い手となるリーダーの養成講座です。東南海・南海地震などの大規模災害に備え、より実戦的な防災講座を開講します。



南海トラフ巨大地震による震度分布



地上天気図 平成21年8月10日9時

平成21年台風9号

募集・申込み締切
平成24年9月19日 必着

兵庫県

ひょうご防災リーダー講座パンフレット

H26年度: 防災対策ワークショップ支援事業にて防災訓練の支援(3ヶ所)

自主防災組織を対象とした 防災リーダー講座の開催

※自主防災組織:
災害対策基本法第5条2において規定されている、地域住民による任意の防災組織である。自分、家族、隣人、自分たちの町を自らが守るといった住民の隣保協同の精神に基づく自発的な防災組織である。

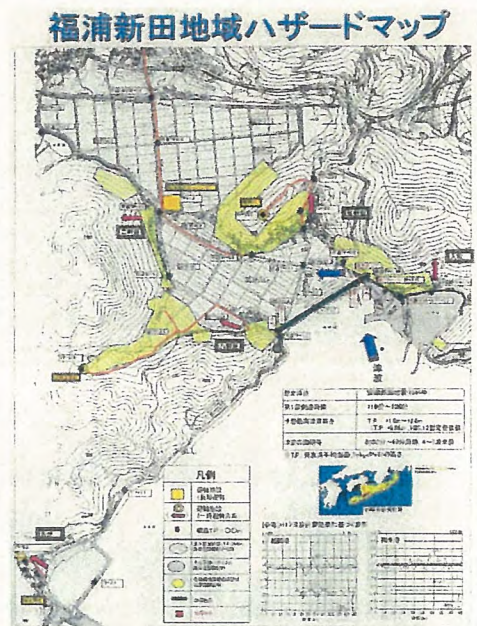
減災対策

防災マップの作成・支援

H26年度以降も継続実施



佐用町の防災マップづくり演習の例



赤穂市防災マップの例

減災対策

防災関係機関と連携した水防訓練の実施 市消防と県消防防災航空隊による合同水難救助訓練

H26年度以降も継続実施



**水害の怖さを忘れない
備 集落孤立想定し訓練**

2009年の福西・北者は、昨年の教訓を踏まえて、災害時で大きな被害を受けないよう、訓練に挑んだ。訓練は、河内郡の北城、三本宮、よる集落の孤立を、防署と県消防防災航空隊から飛来した防災ヘリ、地元の小学生やボランティアからなる、この民防防衛隊約100名、佐用消防から神戸市人が参加した。4年前の海防局に出向した佐用消防署、同地区は土砂崩が繰り返された。ひとたび、これによる水害被害が多発し、孤立すれば、参加し、隣接する市では、要救助者を防災ヘリコプターに引き上げる注進、防士に用事上河。

神戸新聞H25.7.18



**災害時の協力連携を確認
赤穂 水難救助訓練**

市消防と県消防防災航空隊による合同水難救助訓練が、赤穂市で行われた。市消防本部の消防士と、県消防防災航空隊の乗組員が、防災ヘリコプターで、水難救助訓練を行った。訓練は、赤穂市立第一小学校の校庭で行われ、市消防本部の消防士と、県消防防災航空隊の乗組員が、防災ヘリコプターで、水難救助訓練を行った。訓練は、赤穂市立第一小学校の校庭で行われ、市消防本部の消防士と、県消防防災航空隊の乗組員が、防災ヘリコプターで、水難救助訓練を行った。

市消防と県消防防災航空隊

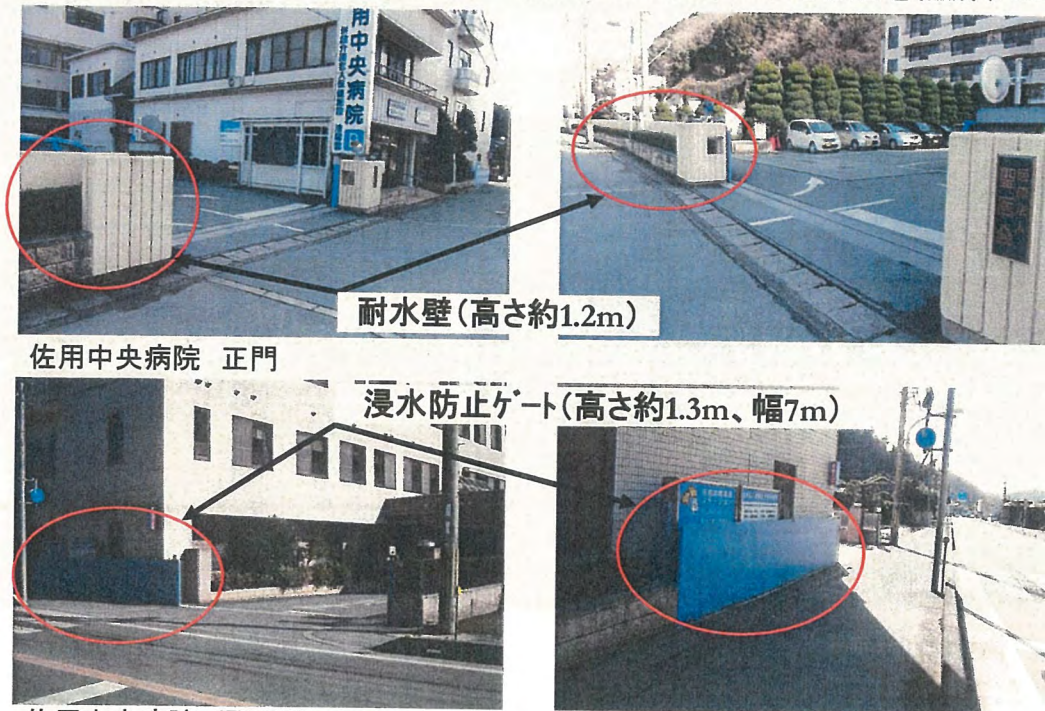
約1人を救助隊員が、赤穂市立第一小学校の校庭で行われ、市消防本部の消防士と、県消防防災航空隊の乗組員が、防災ヘリコプターで、水難救助訓練を行った。訓練は、赤穂市立第一小学校の校庭で行われ、市消防本部の消防士と、県消防防災航空隊の乗組員が、防災ヘリコプターで、水難救助訓練を行った。

毎日新聞H25.8.28

減災対策

建物の耐水機能の確保（民間）

佐用中央病院で耐水壁と浸水防止ゲートを設置して浸水による被害を軽減（H22年設置）



佐用中央病院 正門

佐用中央病院 通用門

